

2019/6/28

神代植物公園

植物多様性センターの「クリのイガのへその緒」

武蔵野ゾーン果樹林エリアで、クリの開花が終わり小さなイガが膨らみ始めています。花が枯れると、茶色くなった毛虫のような雄花序がたくさん落ちているのが目につきますが、枝に残った雌花が膨らんだイガと落ちた雄花序との間はどうなっているのでしょうか。観察してみると、思った通り離層を形成し、雄花序が落ちた痕は維管束の見える落枝痕ができていました。まるで「へその緒」にそっくりですね。



開花中：雄花がつながった長い尾状花序の基部に雌花が咲く



開花後：受精した雌花は残り、雄花序が茶色く枯れはじめる



離層の形成：イガとの間に隙間ができ、離層が形成される



落枝痕：雄花序の軸が離層から落ちて、落枝痕となる